

1 町の概要

はじめに

礼文島は、一島一郡一町の日本最北端の島として、北海道北端の稚内より西方 59kmの日本海上に位置し、その東南には約8kmの礼文水道をへだてて利尻島と向き合っています。

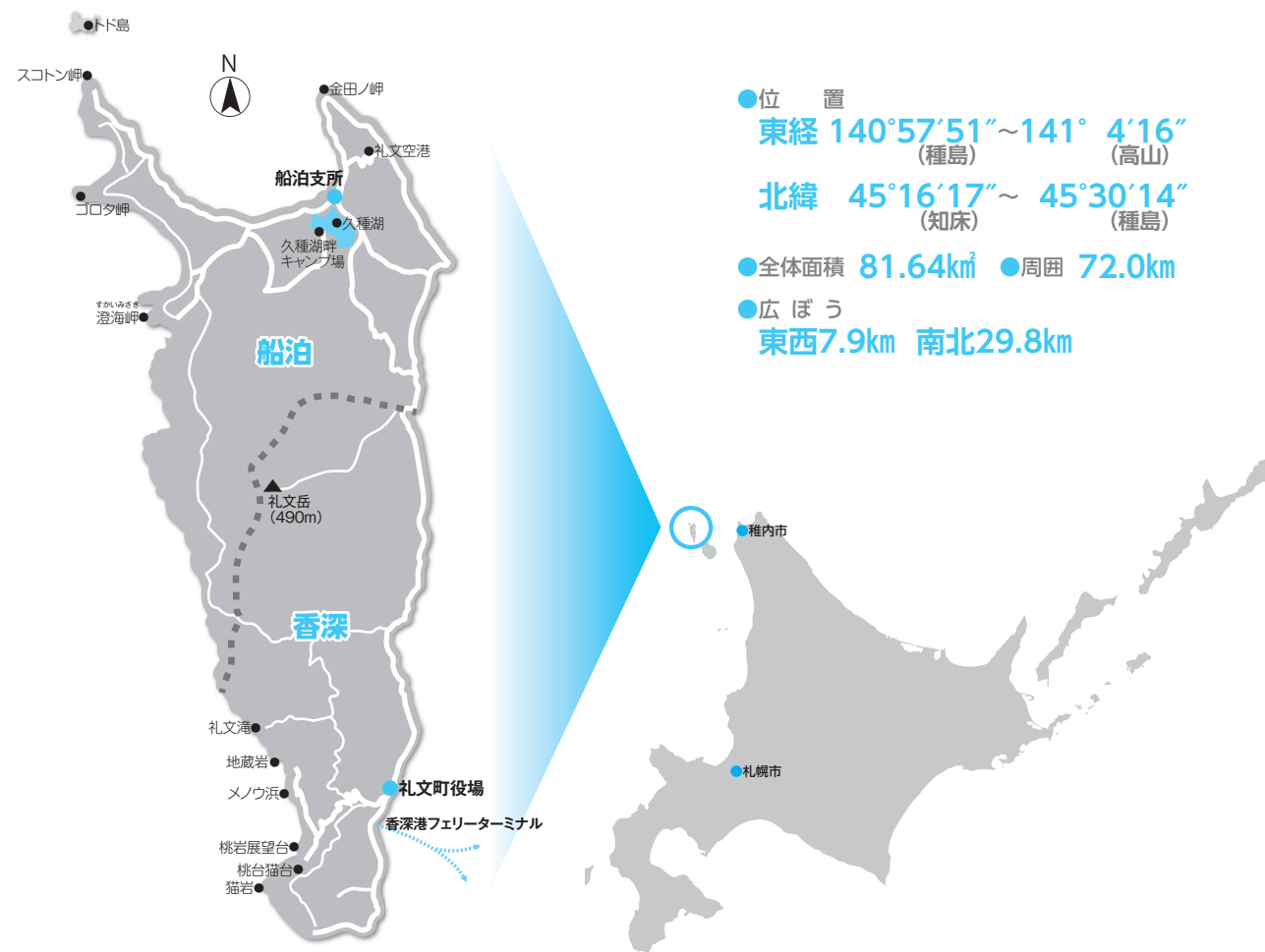
礼文島はアイヌ語の「レプンシリ」に由来し、「沖の島」という意味で、隣接する利尻島とは、輪郭はもとより、地形、地質、さらに生成時期などにおいて、まったく趣が異なります。

歴史は、江戸時代の前期にあたる 1685 年に松前藩の直轄地として宗谷場所が開設され、礼文は利尻とともに付属場所として開設され、以後、アイヌ民族と和人との交易場所として徐々に開拓が進められました。明治 13 年には香深村戸長役場が設置され、さらに、明治 25 年には船泊村が香深村から分村しました。昭和 31 年に香深村と船泊村が合併し礼文村となり、昭和 34 年には礼文町が誕生し水産業の町として発展してきました。

昭和 49 年には全国 27 番目の「利尻・礼文・サロベツ国立公園」に指定されて多くの観光客が全国から訪れるようになり、景観と貴重な高山植物による観光のまち「花の浮島れぶん」としても知られるようになったことにより、漁業と観光の町として発展を遂げてきました。

しかしながら、全国的な問題でもある人口減少は、昭和 30 年国勢調査の 9,874 人をピークに減少の一途をたどり、現在は 2,500 人程となり、若年層の減少が続くなかで高齢者人口が 34% を占め高齢化が進んでいます。また、主産業の漁業についても、漁場の競合や温暖化などの影響により沿岸資源が減少傾向にあり、また、漁業従事者の高齢化も進んでいます。もう一つの産業の柱である観光も、旅行形態や目的の多様化などにより、平成 14 年度をピークに減少傾向が続いています。

このようななか、『島の絆』“地域の結びつきと支えあいによる島の更なる発展をめざして”を掲げ、まちづくり総合計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略に沿った、効果的かつ効率的行政運営と施策の推進を図り、魅力あるまちづくりを目指しています。



位置及び地勢

礼文島は南北約 30km、東西約 8km のやや細長い島で、島内中央部の最高地点である礼文岳 490 m を除き、南部と中部の標高はおおむね 200 ~ 300 m の丘陵地が連続し、東側は海岸線に向かってしだいに下降して海に達しており、西側は急斜する海蝕崖として、断崖絶壁となり海に臨んでいます。このような地形のため、利用できる平地は少なく、島内東海岸線に集落が点在しています。

気候は、日本最北端の宗谷地方の気候、総じて北洋の気候に支配されるが、日本海側のため対馬暖流の影響を受け、内陸の気候と比べると比較的温暖で、夏期は冷涼で冬期は温暖な気候であるが、強風の厳しい季節となる。

町民憲章

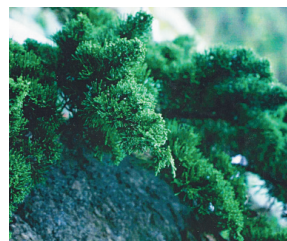
わたくしたちは 日本海に映える清秀な礼文岳のもと 自然のめぐみ豊かな最北の島 礼文の町民です 北国の荒波にいどみ 先人の拓いた海のみちを誇りとして 活力ある郷土の発展を願い 限りない前進をつづるために この憲章を定めます

- 1. 力を合わせ 生産を高めて 豊かなまちをつくりましょう
- 1. きまりを守り 心のふれあう 明るいまちをつくりましょう
- 1. 自然を愛し 環境をととのえ 住みよいまちをつくりましょう
- 1. 教養をたかめ 情操ゆたかな 平和なまちをつくりましょう
- 1. 未来をみつめ 若い力をはぐくみ 伸びゆくまちをつくりましょう

町の花・木・鳥



●町花
エゾウスユキソウ



●町木
シンパク



●町鳥
コマドリ

町章



円は全町民の平和と団結を表現し 円内のレは礼文町の「レ」を図案化し 教育に文化に産業にあらゆる分野における発展を強調し制定されたものである